

学習指導案資料集

Do

江田島中学校区で実践した指導案集です。

この章は、以下のようにわけて掲載しています。

(※第 2 章に掲載した以外の実践を掲載しています)

- 1 出前授業として取り組んだ実践
- 2 キャリア教育の視点で取り組んだ実践

第2章 PDCA サイクル ～D～

1 出前授業として取り組んだ実践

(1)切串小学校

① 生活科(第2学年)における授業実践

教科	生活科
学年	第2学年
単元名	動く動くわたしのおもちゃ
単元の目標	○身近にあるものを使って、動くおもちゃを作る活動を通じて、よりよく動くように改良したり、もっと楽しくなるように遊び方やルールを工夫したり、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなで楽しみながら遊びを創り出そうとすることができる。
キャリア教育として本単元で育成する力	見つめる力（自己理解・自己管理能力）
育成する力の具体	❖自分が頑張ったことや気付いたこと、成長したことを自分の言葉で表現することができる。
キャリア教育の視点	・友達との交流により、考えを比べたり自分の作りたいおもちゃに向けて試行錯誤を繰り返したりして気付いた発見は、実感を伴い、誰かに伝えたい。自分の言葉で表現することは、思いや考えが自覚化されるので、自分の学びや成長が振り返りやすくなるとともに、成長の記録として残すこともできる。

単元構想計画（全12時間 本時12/12時間目） ※キャリア教育の視点は太字・下線・網掛けをする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①材料や作り方を変えることで、おもちゃの動きが変わることに気付いている。 ②安全に配慮しながら必要な道具を適切に使っている。 ③ルールや遊び方を工夫することで、みんなで楽しく遊べるようになったことに気付いている。	①実際に試したり比べたりしながらおもちゃの動きを予想し、使う材料を選んでいる。 ②友達のおもちゃと比べたり競争したりしながら、おもちゃの動きを予想し、改良している。 ③様々な遊びを試しながら、みんながより楽しく遊べるように遊び方を改良している。 ④自分が頑張ったことや気付いたこと、成長したことを自分の言葉で表現している。	①自分のおもちゃをもっとよく動かしたいという思いをもち、繰り返し改良しようとしている。 ②身近なものを使ってみんなと遊びを創り出すことの面白さを実感し、これからも友達と一緒に遊びを創り出そうとしている。

探究課題（単元を貫く問い）

◎もっと〇〇するためには、どのようにくふうをすればよいだろう。

	個別の問い・学習内容（時数）	指導・支援の工夫	評価の観点			見つめる力を付けるために	評価方法
			知	思	態		
導入	どうやって動くのかな。 作ってみたい。 ・おもちゃで遊び、動く仕組みを考える。 ・作りたいおもちゃのイメージをもつ。（事前）	・夏季休業中の登校日などで、見本のおもちゃを提示しておき、作りたいという意欲をもたせる。 ・見本のおもちゃで活動し、動きや仕組みに興味をもたせる。			①	【動機付け】 やってみたいと思う出会わせ方	

展 開	〇〇するおもちゃを作るには、どうしたらいいだろう。 - 見本で提示した共通のおもちゃを作る。 - 友達と交流しながら工夫して作る。 - 作ったおもちゃで遊ぶ。 (2)	- 材料は、太さや大きさ、厚さなど多様なものをそろえておく。 - 比較するために、作ったものを必ず残しておくように伝える。 - 友達と交流しながら、楽しく活動を進められるようにする。 - もっと〇〇するにはどうすればよいかアイデアを考えながら作業を進めさせる。	①	①	①	【友達との交流】 比較する 自分の学びを振り返る	観察法 作品
	ほかには、どんな動くおもちゃがあるのだろう。 ゲストティーチャー（西原館長先生）から磁石や空気など他の動力を使ったおもちゃの紹介をしてもらう。 (1)	- ゴム以外の動力で動くおもちゃをGTに紹介してもらい、作りたいおもちゃのイメージをもたせる。 - 体験コーナーを設け、いろいろな動くおもちゃの動きや仕組みに興味をもたせる。	①			【出前授業】 （さとうみ科学館） 【動機付け】 やってみたいと思う出会わせ方を工夫する	観察法
	〇〇するおもちゃを作るには、どうしたらいいだろう。 - 自分の作りたいおもちゃを作る。 - 友達と交流しながら工夫して作る。 (3)	- 材料は、太さや大きさ、厚さなど多様なものをそろえておく。 - 比較するために、作ったものを必ず残しておくように伝える。 - 友達と交流しながら、楽しく活動を進められるようにする。 - もっとよく〇〇するにはどうすればよいかを考えながら作業を進めさせる。	①	①	①	【友達との交流】 比較する 自分の学びを振り返る	観察法 作品
	みんなで遊びたいな。みんなで楽しく遊ぶには、どうすればいいだろう。 2年生で、作ったおもちゃを使って遊ぶ。 - 作ったおもちゃで遊ぶ。 (2)	友達のおもちゃで遊ぶ中で、気付いたことを伝え合わせる。	③	③	②		観察法
	1年生やこども園の幼児たちを招待して、おもちゃフェスティバルを開こう。 1年生やこども園の幼児のみんなと一緒に楽しく遊ぶ活動について話し合う。 - おもちゃフェスティバルに向けて、準備をする。 - コースを作ったりゲームを考えたりして楽しく遊ぶ。 (3)	- 楽しく遊ぶための見通しがもてるように計画を話し合わせる。 - 協働してできるように、必要な材料や道具などを用意し、自分たちでできるようにする。 - フェスティバルがスムーズに開けるように、ルールや役割を決めるとよいことを伝える。	③	③	②	【友達との協働】 自分の学びを振り返る	観察法
ま と め ・ 振 り 返 り	おもちゃ作りを通して、どんなことが分かっただろう。 自分の学びを交流する。 (1)	- 様々な動力が日常生活にどのようにいかされているかについて出前授業から学ぶ。 - 実験や画像などを通じ、理解を深める。 - 単元全体を通じての振り返りを行い、授業前の理解や思いがどのように変化したのかを振り返る。	④			【見つめる力】 を評価する	観察法 ワークシート

②総合的な学習の時間(第3・4学年)における授業実践

教科	総合的な学習の時間
学年	第3・4学年（複式学級）
単元名	切串「とれとれ自まん」～たんけんたい→ひろめたい～
単元の目標	○切串の地産地消市場について情報を収集したり整理したりする活動を通して、身に付けた知識や体験と関連付け、実生活の課題解決に活用できる概念を形成することができる。（知識及び技能） ○切串の地産地消市場の現状から課題を立て、見通しをもって学習を進め、課題解決に取り組むことができる。（思考力、判断力、表現力等） ○切串の地産地消市場に関わる人々の生き方や考え方に触れ、自分の考え方や生き方を見つめようとするすることができる。（学びに向かう力、人間性等）
キャリア教育として本単元で育成する力	見つめる力（自己理解・自己管理能力） 見通す力（キャリアプランニング能力）
育成する力の具体	❖地域の人たちの思いを受け止め、自分たちが考え行動することを通して、自分のよさに気付く。（見つめる力） ❖地産地消市場について、課題や取り組みたいことを見付け、計画を立てて修正しながら学習を進める。（見通す力）
キャリア教育の視点	・体験活動を通して気付いた地域の課題について、自分たちができることを考え、よりよい解決へ向けて地域で行動することは、自己の生き方を考えることにもつながる。

単元構想計画（全70時間 本時21／30時間目）※キャリア教育の視点は太字・下線・網掛けをする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①地域の人々との関わり合いを通して、地産地消市場のよさを理解している。 ②市場に携わる人々が協力し合っていること、工夫や努力をしていることを理解している。	①地産地消市場から見付けたよさを、わかりやすく伝える方法を考えている。 ②市場の現状から課題を立て、見通しをもって学習を進め、課題解決に取り組んでいる。	①友達の考えを理解し、一緒に考えながら課題解決をしようとしている。 ②地産地消市場に関わる人々の生き方や考え方に触れ、自分の考え方や生き方を見つめようとしている。

探究課題（単元を貫く問い）

◎地産地消市場を盛り上げるには、どうすればよいだろう。

	個別の問い・学習内容（時数）	指導・支援の工夫	評価の観点			育成する力を付けるために	評価方法
			知	思	態		
導入（情報の収集・課題設定・整理・分析）	切串「とれとれ自まん」～たんけんたい～ （40）	・社会科の学習と関連させながら進める。	①	①	①	【学習の目的】 【学習計画】 【見通す力】 【見つめる力】	観察法 アンケート 付箋紙
	地産地消市場には、どんな課題があるのだろう。 （1）もっと調べよう（8） ・これから学習したいことを考え合う。（1） ・地産地消市場の歴史や発足のきっかけ、生産者の願いなどを取材する。（4） ・市場に参加して気付いたことや思いを出し合い、問題を考える。（2） ・問題として考えたことを交流し整理し、学習課題を決定し共有する。（1）	・フィールドワークで地域の人と関わり合う体験を行い、農作物の種類や買い物客などの反応を調べられるようにする。 ・市場の様子を撮影し、参加できない児童にも共有できるように配慮する。 ・市場の課題よりもよさに着目できるように言葉かけを行う。	①	①		【学習の目的】 【学習計画】 【フィールドワーク】 【市場見学】	観察法 振り返り

	市場を広めるには、どうすればよいだろう。 (2) 市場をもっと盛り上げるには？ ・地産地消市場を広めるための方法を考える。(2)	・ウェビングマップを活用して、考えを整理させる。 ・座標軸を活用して、自分たちにできることとできないことを検討し、方法を決められるようにする。				②	【見通す力】 を評価する	観察法 ワークシート 振り返り
展開 (整理・表現)	市場を盛り上げるには、 どうすればよいだろう。 (1) 自分たちにできることは何か？ ・市場のよさをもっと詳しく取材する。(1) ・見付けたよさを広める方法と内容を検討する。(2) ・プレゼンを作成する。(6) ・プレゼンを交流する。(1) 本時 ・計画の修正をし、発信の準備を行う。(4)	・今年度最後の市場を盛り上げることを目標に、逆算的思考で準備をさせる。 ・市場の利用客や市場を運営される方々、農家の方々などに見学に言ったり直接話を聞いたりできるようにする。 ・クラゲチャートを活用し、発信するための具体策を考えさせる。 ・プレゼンの交流には、市場の関係者に見てもらい、感想やアドバイスを頂けるようにする。	②	②	②		【見通す力】 を評価する 【取材活動】 【市場見学】 【ゲストティーチャー】 【計画の修正】 【見つめる力】 を評価する	観察法 ワークシート 振り返り
	(2) さあ！発信しよう!! ・作成物の効果について調べる。(1) ・市場を盛り上げる発信をする。(2)	・児童の思いや考えが市場の方々と双方向なものになるように、作成物は実際に使用して、市場の方々の反応を確かめる。 ・配布や掲示物に関しては、児童と市役所や団体等に交渉して実施できるようにする。	②		②		【地域での活動】 【交渉】 【市場】	観察法 振り返り
まとめ・振り返り	自分が成長したことは何か？ (1) 学習を振り返ろう。 ・単元を振り返り、交流をする。(1)	・学んだことやできるようになったこと、考えたこと、続けていきたいことについて、ピラミッドチャートを活用して整理させ、自分の成長を可視化できるようにする。			②		【見つめる力】 を評価する	観察法 ワークシート 振り返り



地産地消市場に行き、生産者の思いなどをインタビューしている子供たちの姿。

本時の展開

(1)目標(育成する力)

本時の目標	【学】○チームごとに考えた市場のよさを広めるプレゼンの交流を通して、自分たちの考えのよさや活動の価値に気付くことができる。（見つめる力）
-------	--

(2)本時の授業過程

	学習活動	指導上の留意点（◇）	評価規準（○）と（評価方法）
導入 2分	1 本時の学習の流れをつかむ	◇本時の学習の流れをみんなで確認する。	
展開 33分	2 本時のめあてを知る。 めあて 意見を出し合って、よりよい宣伝にしよう！	◇発表の目的や交流の視点を確認する。 ・目的－市場のよさを知ってもらい、お客さんを増やすためのよりよい方法を考える。（ゴールの提示） ・実施日－2月第3土曜日の市場 ・交流の視点－①改善点 ②よい点	
	3 チームごとにプレゼンを行い、考えを出し合う。	◇ゲストティーチャーにも参加してもらい意見をいただけるようにする。 ◇ワークショップ形式で行い、自由に意見を出しやすくする。	
	4 ゲストティーチャーから感想をいただく。	◇市場の会長さんから、プレゼンや児童の学習の様子から、よさや学習の価値についてコメントをいただけるように事前打ち合わせしておく。	
終末 10分	5 振り返りをする。	◇各自で振り返りをした後、チームごとにも振り返りをし、課題から次時にすることを確かめる。	（キャリア教育の視点） 【学－②】 ○チームごとに考えた市場のよさを広めるプレゼンの交流を通して、自分たちの考えのよさや活動の価値に気付いている。（観察法・振り返り）



本時の授業風景

児童の考えたプレゼンに対して、ゲストティーチャーからよさやアドバイスをいただいている。

地産地消市場を盛り上げるために、児童が考えた作品



甘夏
おすすめ かわりか
いい!

4月の野菜や果物など

ういそ	さやえんどう	あまふ
レタス	あけぼの	キュウリ
ねま	小ぶく	スプラッシュ
ごまつな	1号れんこん	新玉ねぎ
あさへつ	つくねいも	さつまいも



ブルーベリー
おすすめ 甘
はーい

7月の野菜や果物など

ネギ	長なす	トマト
キュウリ	アスパラ	メークリン
えびさ	赤しそ	スイカ肉
ミニトマト	マクワリ	スイカ(黄)
アボカド	れんこん	ピーマン
なす	ウリ	ダイオウ
ジューク	ニンジン	エタマメ
ゴーヤ	小ぶく	ブロッコリー



メークリン
おすすめ ショカツスター
ホドナなど
いろいろな料理
に使えるのよ!

5月の野菜や果物など

ほうたけ	きんぎょ	ほうれん草
ごまつな	にんじん	ジャガイモ
つくねいも	さやえんどう	メークリン
たんぱく	かいり	たまねぎ
きゅうり	サニーレタス	スプラッシュ
いんげん	ちりしめ	にん
ネギ	スターチス	さつまいも
アスパラ	いんげん	のたまこ
さやえん	セリ	



白ウリ
トマトスープに入れると
ホロホロおいしい!

8月の野菜や果物など

ブルーベリー	いちじく	ウリ
ゴーヤ	もも	おぼろ
小ぶく	きく	マクワリ
あなご	かぼちゃ	きんぎょ
ピーマン	しめじ	アスパラ
パプリカ	アスター	キュウリ
ミニトマト	ししとう	ポトモ
パプリカ	きんぎょ	



シシト
おすすめ ハンパスター
に入れると
おいしい

6月の野菜や果物など

トウモロコシ	スプラッシュ	オクラ
キュウリ	ほうれん草	ピーマン
ジャガイモ	にんじん	じゃがいも
だいこん	かいり	さやえん
いんげん	ちりしめ	にん
たまねぎ	スターチス	さつまいも
ねま	小ぶく	メロン
ウリ	アスター	キュウリ
ダイ	カボチャ	アスター

**9月はたけが
お休み～**
つかれた

地産地消市場野菜カレンダー
おいしいよ～!!

児童が考えた地産地消市場野菜カレンダー
児童のアイデアで、何月に何の野菜や果物・花が売ってあるかを調べてまとめたカレンダー。また、毎月のおすすめの品物や味・料理法を載せてわかりやすく工夫している。



カボチャ
おすすめ とても甘い
スープにするとおいしい!

10月の野菜や果物など

さといも	しんじゆ	ごまつな
だいこん	ピーマン	かぼ
かぼ	とうもろ	アスター
かい	アスター	さつまいも
とうもろ	チヌ	



カブ
おすすめ 冬の土から
きんぎょ

11月の野菜や果物など

みずな	ほうれん草	だいこん
つくねいも	はくさい	はくさい
デコボ	あなご	小ぶく
はくさい	きんぎょ	キュウリ
キュウリ	はくさい	アスター
キャベツ	きんぎょ	アスター
ねま	しんじゆ	にんじん
かぼ	チヌ	アスター
アスター	とうもろ	きんぎょ
かぼ	なんてん	スイセン



だいこん
おすすめ さやみずしい味
葉はほうちで味
がするのよ!

12月の野菜や果物など

はくさい	いちじく	みかん
だいこん	ごまつな	しんじゆ
レタス	キャベツ	ミズナ
ほうれん草	さといも	かぼ
とうもろ	さつまいも	キュウリ
キュウリ	デコボ	ねま
いちじく	小ぶく	とうもろ



スイートポテト
おすすめ 見た目の有様は
甘い。口に入れた
らかんじゅうの味が
おいしいよ!

2月の野菜や果物など

はくさい	キャベツ	白ねぎ
だいこん	ねま	デコボ
ほうみ	アスター	ほうれん草
ごまつな	新玉ねぎ	あさへつ
つくねいも	さつまいも	にんじん

**3月はたけが
お休み～**

③算数科(第5学年)における授業実践

教科	算数科
学年	第5学年
単元名	「図形の面積」～面積の求め方を考えよう～
単元の目標	○三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の計算による求め方について理解することができる。 [B(3)ア(7)] ○図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現をふり返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くことができる。 [B(3)イ(7)]
キャリア教育として本単元で育成する力	見つめる力（自己理解・自己管理能力） 見通す力（キャリアプランニング能力）
育成する力の具体	❖自分ができていることを考え、主体的に学習に取り組む。（見つめる力） ❖生活や学習と仕事を関連付け、自分にできていることを考える。（見通す力）
キャリア教育の視点	・課題に向かって主体的に学習することで、自分の学習の過程や結果に責任をもつことになる。また、児童自らの活動で求積公式を導き出すことは、自己を高める努力にもつながり、見つめる力を高めることができる。さらに、学習したことが、実際の仕事に生かされていることを知ることで、学習の意義を考えることができる。

単元構想計画（全13時間 本時5/13時間目）※キャリア教育の視点は太字・下線・網掛けをする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①三角形の底辺と高さが等しければ、形が変わっても面積は変わらないことを理解している。 ②三角形の求積公式から、高さを求めている。 ③求積公式を使って、いろいろな図形の面積を求めたり、底辺や高さを求めたりしている。	①等積変形の考えを使って、既習の図形の求積公式から平行四辺形の求積公式を導き出している。 ②底辺をどこにした平行四辺形でも、公式が適用できることを考えている。 ③どんな形の平行四辺形でも、公式を適用できることを考えている。 ④等積変形や倍積変形の考えを使って、既習の図形の求積公式から三角形の求積公式を導きだしている。	①平行四辺形の面積を、等積変形の考えで<u>主体的に求めようとしている。</u> ②三角形の面積を、等積変形や倍積変形の考えで<u>主体的に求めようとしている。</u> ③既習の考えを使って、台形の面積を<u>主体的に求めようとしている。</u> ④既習の考えを使って、ひし形の面積を<u>主体的に求めようとしている。</u> ⑤既習の考えを使って、一般の四角形や五角形の面積を<u>主体的に求めようとしている。</u> ⑥生活や学習と仕事を関連付け、<u>学習の意義を考えようとしている。</u>

探究課題（単元を貫く問い）

◎いろいろな形の面積は、どうやって求めるのだろう。

	個別の問い・学習内容（時数）	指導・支援の工夫	評価の観点			育成する力を付けるために	評価方法
			知	思	態		
導入	何をどのように学習するのだろうか。 ・学習の見通しをもつ。	・既習の図形（長方形・正方形）の求積方法を確認する。 ・本単元で学習する図形の一覧を掲示し、「図形の面積はどうすれば求められるのか」という単元を貫く問いをもたせる。また、単元計画表を配布して学習の見通しをもたせるとともに、毎時間の進行状況をチェックできるようにする。				【学習の目的】 【学習計画】 【計画表】 【見通す力】を評価する	

展 開	平行四辺形の面積は、どうやって求めるのだろう。 - 平行四辺形の面積の求め方を考える。(1) - 平行四辺形の面積を求めるために、必要な長さについてまとめ、求積公式をつくる。(1) - 平行四辺形の高さの測り方を考える。(1) - 底辺と高さの等しい平行四辺形は、面積が等しいことに気付く。(1)				①		観察法 振り返り
				①			観察法 振り返り
				②			観察法 振り返り
				③			観察法 振り返り
	三角形の面積は、どうやって求めるのだろう。 - 三角形を既習の図形に等積変形や倍積変形して、三角形の面積の求め方を考える。(1) 本時 - 三角形の底辺と高さの関係を理解し、三角形の求積公式をつくり、求積に必要な長さを測って面積を求める。(1) - 頂点から底辺に引いた垂線（高さ）が、底辺上で交わる場合の三角形の面積の求め方を考え、底辺も高さも等しい三角形の面積を考える。(1) - 三角形の面積を底辺の長さから、高さを求める。(1)	できる限り児童の自主的な学習をめざす。そのため、1時間の学習進度や学習方法は、児童自身が決定できるようにする。			②	【見つめる力】 を評価する	観察法 振り返り
		考えの交流も「話したいときに話したい相手と」といった自由対話とする。対話の進まない児童には、指導者から違う考えの児童を意図的に紹介し、交流を促すようにする。		①			観察法 振り返り
				②			観察法 振り返り
	台形の面積は、どうやって求めるのだろう。 台形の面積の求め方を考え、既習の図形に等積変形、倍積変形すれば面積が求められることに気づき、台形の求積公式を考える。(1)	単元計画表の中には、説明活動を行う課題も入れておき、相手に説明をし納得を得ることで解決となる課題とする。			③	【見つめる力】 を評価する	観察法 振り返り
	ひし形の面積は、どうやって求めるのだろう。 ひし形の面積の求め方を考え、既習の図形に変形すれば面積が求められることに気づき、対角線が直交する四角形の求積公式を考える。(1)	毎時間の終末には、自分の学習の成果や進め方についての振り返りを行い、学習内容だけでなく、自己理解能力や自己管理能力の育成を図る。			④	【見つめる力】 を評価する	観察法 振り返り
	一般の四角形や五角形の面積は、どうやって求めるのだろう。 一般の四角形や五角形の面積の求め方を考え、いくつかの既習の図形に分割すれば、面積が求められることに気付く。(1)				⑤	【見つめる力】 を評価する	観察法 振り返り
	いろいろな図形の面積は、どうやって求めるのだろう。 - いろいろな図形の面積を、公式を使って求める。 - 面積がわかっている図形の底辺や高さを求める。(1)			③			観察法 振り返り

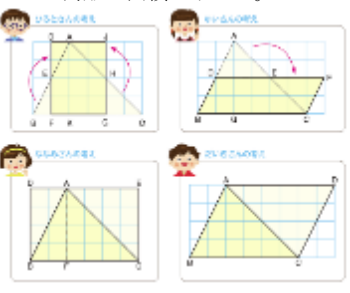
まとめ・振り返り	面積は、生活や仕事にどのように使われているのだろうか？ ・実社会で行われている面積の活用を知る。(1)	・企業が実際に行っている土地の求積方法について知り、本単元の学習が自分の生活や将来に役立つという思いをもてるようにする。	⑥	【出前授業】 広成建設 【見通す力】 尾振り を評価する	観察法 振り返り
----------	--	--	---	--	-------------

本時の展開

(1)目標(育成する力)

本時の目標	【学】○具体物や教科書、友達の援助等を使って、三角形を既習の図形（長方形や平行四辺形）に等積変形や倍積変形をして、三角形の面積の求め方を主体的に考えることができる。（見つめる力）
-------	---

(2)本時の授業過程

学習活動		指導上の留意点（◇）	評価規準（○）と（評価方法）
導入 5分	1 教科書 P. 49 ①の三角形を提示し、問題を把握する。 	◇切って動かす等の既習の考え方を掲示しておき、参考にできるようにする。	
展開 25分	めあて 三角形の面積は、どうすれば求められるのだろうか。 2 三角形の面積を求める。  ・ひろさんとゆいさんは、切って移動させている。 ・ななみさんとだいきさんは、三角形を2つ分にして半分になっている。 ・ひろさんとななみさんは、長方形にしている。 ・ゆいさんとだいきさんは、平行四辺形にしている。	◇長さを測るなど、多様な方法で考えられるよう、実寸大の図シートを十分に用意しておく。 ◇自分の考えと教科書の4人の考えを比較したり、4人の考えの共通点や相違点を考えたりして、気付いたことを友達と交流するとよいことを伝える。 （話し合い） 自由に話し合えるようにすることで、必要感のある交流にする。 ◇交流の中で出てきた気付きなどを、掲示用の考えシートやデジタル教科書等に記入させておき、他の児童の参考にするようにする。	（キャリア教育の視点） 【学-②】 ○具体物や教科書、友達の援助等を使って、三角形を既習の図形（長方形や平行四辺形）に等積変形や倍積変形をして、三角形の面積の求め方を主体的に考えようとしている。 （観察法・振り返り）
終末 15分	3 本時のまとめと振り返りをする。 【ま】 三角形の面積は、三角形を長方形や平行四辺形の形に変えると求められる。 【ふ】 図形を切って移動させたり、その図形2つ分を付けたりすると、これまで求め方が分かっている図形に変えることができる。	◇本時の課題が終わった児童は、次の課題に進んでもよいことを伝える。	



本時の授業風景

学習ノートに書いた児童の考え



児童の考え

← 平行四辺形に倍積変形をして三角形の面積を求めている。

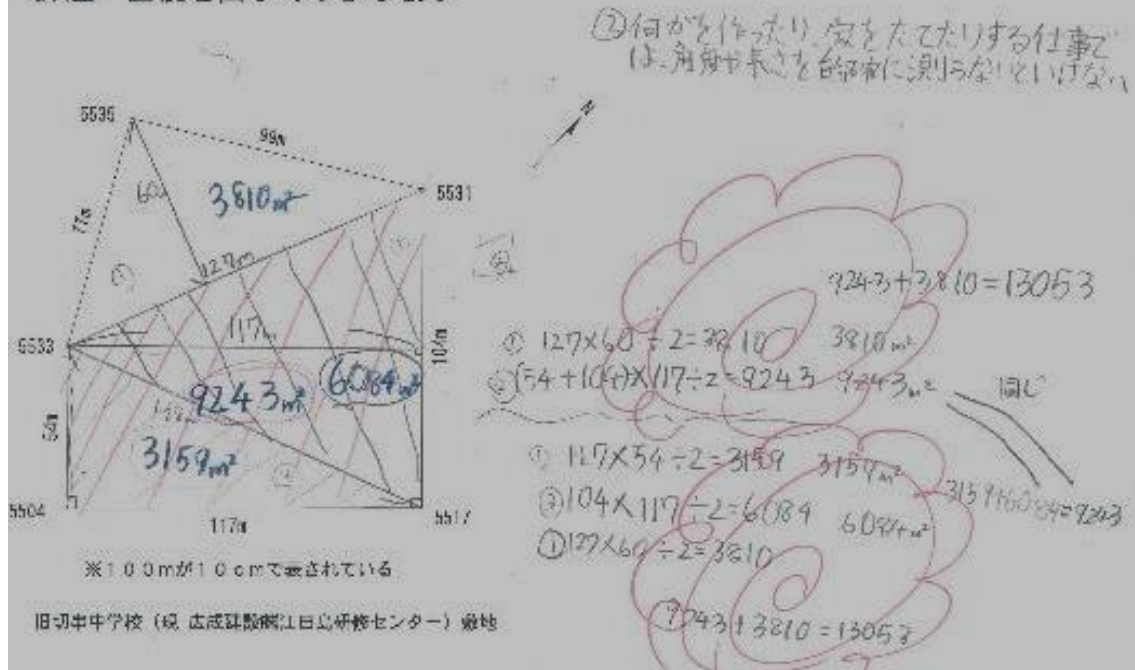
児童の考え

↓ 長方形に等積変形をして三角形の面積を求めている。

単元末の出前授業で企業が提示してくれた課題プリント



課題 面積を出してみましょう



④体育科(第6学年)における授業実践

教科	体育科
学年	第6学年
单元名	「体の動きを高める運動」
単元の目標	○体の動きを高める運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、自己の課題を踏まえ、直接的に体力の向上をねらいとして、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うことができる。 [知識及び運動] ○自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] ○体の動きを高める運動に積極的に取り組み、約束を守って助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。 [学びに向かう力、人間性等]
キャリア教育として本単元で育成する力	関わる力（人間関係形成能力・社会形成能力） 見通す力（キャリアプランニング能力）
育成する力の具体	❖体の動きを高める方法について、友達と関わりながら考えている。（関わる力） ❖課題解決に向けて、どのように取り組むとよいかを、具体的に考えている。（見通す力）
キャリア教育の視点	・外部講師から指導を受けることにより、運動の仕方だけでなく、その運動の効果や動きを高めるよさについて、児童が納得しながら学ぶことができるため、児童が自分の課題に応じた運動を選ぶ上で、その学びを活用しようとする意欲を向上することができる。

単元構想計画（全7時間 本時3／7時間目）※キャリア教育の視点は太字・下線・網掛けをする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①体の動きを高める運動の行い方を理解している。 ②自己の課題を踏まえ、体力の向上をねらいとして「体の柔らかさ」「巧みな動き」「力強い動き」「動きを持続する能力」を高める運動を行っている。	①体の動きを高める方法について、<u>友達と関わりながら考えている。</u> ②自己の体力に応じて、運動の課題や行い方を選んでいる。 ③課題解決に向けて、<u>どのように取り組むとよいかを、具体的に考えている。</u>	①仲間の考えや取組を認め、場の安全に気を付けたり助け合ったりしながら、体の動きを高める運動に積極的に取り組もうとしている。

探究課題（単元を貫く問い）

◎どのような運動をすれば、体の動きを高めることができるのだろう。

	個別の問い・学習内容（時数）	指導・支援の工夫	評価の観点 知 思 態	育成する力を 付けるために	評価方法
導入	体の動きが高まるとは、どういうことだろう。 自分の課題は何だろう。 ・課題について、学習の見通しをもつ。	・課題意識をもたせるために、事前アンケートの結果や新体力テストの結果を提示して、自己または自校の体力の課題に気付かせる。 ・学習の目的や方法を考えさせて、学習の見通しをもたせる。	①	【学習の目的】 【学習計画】 【計画表】 【見通す力】を評価する	観察法

展 開	巧みな動きを高めるには、どんな運動をすればよいのだろう。 ・自分の考えを伝え合う。 (1)	・高めたい動きのテーマ別に取り組ませ、活動の目的を明確にする。 ・行う運動のイメージをもたせるために、タブレットによる動画や画像で動きのモデルを提示し、必要に応じて自由に見られるようにする。	①			観察法 タブレット
	体の柔らかさを高めるには、どんな運動をすればよいのだろう。 ・自分の考えを伝え合う。 (1) 本時	・グループで運動の様子をタブレットで撮影し、自らの動きを客観的に見たりグループでアドバイスし合ったり上手な人の動きを何度も見たりできるようにする。 ・ヨガインストラクターに出前授業をしてもらい、動きの効果や正しい体の使い方、運動することのよさなどについて話してもらい、生涯体育について考えることができるようにする。	①		【出前授業】 “yoga、balance-workホルトノキ” インストラクター 【関わる力】 を評価する	観察法 タブレット
	力強い動きを高めたり動きを持続する能力を高めたりするには、どんな運動をすればよいのだろう。 ・自分の考えを伝え合う。 (1)	・運動中に気付いたポイントや工夫点を全体交流できるようにする。 ・毎時間の終わりには、自分の学びを振り返らせ、次時の課題意識をもてるようにする。	①			観察法 タブレット
	自己の体力の課題に合わせて、どのようなセット運動にすればよいだろう。 ・自分の体力の課題に応じてグループをつくり、一緒にセット運動を考える。 (2)	・これまでの振り返りを基に、自分の高めたい力を考えさせる。同じ課題をもつ児童同士でグループを作り、グループで課題に適したセット運動を考えさせる。 ・最終的には曲に合わせてセット運動ができるようにし、楽しんで運動ができるようにする。 ・セット運動が効果的な運動となるように、3つの視点（①高めたい動きに合っているか②手軽に行えるか③楽しく行えるか）を提示する。	②	②	【関わる力】を 評価する	観察法 タブレット
ま と め ・ 振 り 返 り	体の動きを高めるよさとは何だろう。 ・グループで考えたセット運動を交流する。 ・体の動きの高まりを振り返り、今後の運動や体力づくりへの取り組み方を考える。 (1)	・作ったセット運動を交流し合い、工夫点やよさを伝え合う。 ・単元を通した振り返りでは、自分の考えの変化や成長を見つめさせ、今後の運動やスポーツとの向き合い方を考えさせる。	③		【見通す力】を 評価する	観察法 タブレット

本時の展開

(1)目標(育成する力)

本時の目標	【思】○体の動きを高める方法について、友達と関わりながら考えることができる。 (関わる力)
-------	--

(2)本時の授業過程

学習活動	指導上の留意点 (◇) ★外部講師の動き	評価規準 (○) と (評価方法)
導入 5分	1 ボールセット運動をする。 2 学習の見通しをもつ。 ◇前時で出た成果と課題を電子黒板で確認し、事前に撮影した運動の様子を見て課題を意識できるようにする。 ◇課題解決に向けて、何をどのようにするとよいのか、具体的にイメージをもてるように、視点を与える。	
	めあて 「体のやわらかさ」を高めるには、どんなことを意識すればよいだろうか。	
展開 35分	3 体の柔らかさを高める動きを教わる。 ◇一つ一つの動きが、何を高める運動なのかを意識できるようにする。 ★外部講師は、「体の柔らかさと高める動き」についての実演指導を行う。 ◇外部講師の動きをタブレットで撮影し、見返せるようにする。 4 ペアで動きを高めるためのコツを伝え合いながら運動をする。 ◇各運動の見る視点を確認しておく。 ◇動きをタブレットで撮影し、確認しながらコツを見付けられるようにする。 5 見付けたコツについて交流する。 ◇撮影した動画などを電子黒板で提示し、共有化を図る。 ◇児童の意見を電子黒板に整理する。 ◇交流した動きを試す時間を設定する。 ★動きを高めるためのアドバイスがあれば伝える。 6 ゲストティーチャーの話聞く。 ★体のやわらかさを高めるよさや運動を続けるよさについて話す。	(キャリア教育の視点) 【思-①】 ○体の動きを高める方法について、友達と関わりながら考えている。 (観察法・振り返り)
終末 5分	7 振り返りをする。 ◇体の柔らかさを高めるよさについて考えさせる。 ◇自分の課題と本時の学びについて振り返らせ、次時の課題へつなげる。	

本時の授業風景



(2) 江田島小学校

①学級活動(第4学年)における授業実践

教科	学級活動
学年	第4学年
単元名	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 ア 学級や学校における生活上の諸課題の解決
単元の目標	○交流会を計画する活動を通して、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。 ○お年寄りの方との交流会を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする。
キャリア教育として本単元で育成する力	関わる力(人間関係形成能力・社会形成能力)
育成する力の具体	❖ 自他の個性を理解し尊重したうえで、どのような活動を仕組みば、相手が喜び、よりよい関係を築くことができるか考える。

●教科の評価規準

キャリア教育においても、大事な部分になります！

学級活動 思考・判断・表現

生活をよりよくするための課題や問題を見出し、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協力して実践している。

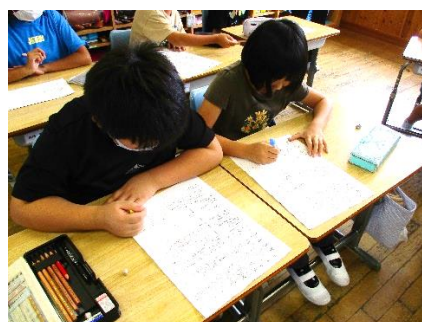


●キャリア教育の視点 関わる力

①互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼し合ったりして生活するため、他者の立場や思いを察しながら合意形成を図り、お年寄りが喜んでくれる交流会の計画を考える。



自分の考えと理由をあらかじめ考えておいたことで、積極的に発言をすることができました。



「上手な話し合い」でなくても、子供たちなりに話し合いをしていく過程そのものが、育成する力を伸ばすことに繋がります。

【学級全体の活動】

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】
9月8日(金) 帰りの会	・議題を決定する。	・計画委員会の提案のもと、学級全員で決定する。	◎生活をよりよくするために、進んで議題を考えたり、選んだりしようとしている。(主体的に取り組む態度)【観察】
9月11日(月) 帰りの会	・話し合いワークシートに自分の考えを記入する。	・話し合う内容や決まっていることが共通理解できるように助言する。	◎交流会の目的に合った意見を考え、ワークシートに書くことができる。(思考・判断・表現)【ワークシート】
9月21日(木) 朝の会	・話し合いワークシートを受け取る。	・話し合いワークシートを返却する際には、児童が考えた意見について、肯定的なコメントを記入し、話し合いの意欲を高める。	

【本時の展開】

(児童の指導過程)

議 題	施設を訪問し、お年寄りの方と交流しよう。		
提案理由 提案者()さん	これまで、総合的な学習の時間で福祉について学習をしてきました。「ふ・く・し」とは、「ふだんのくらしをしあわせに」ということを社会福祉協議会の山口さんから教えていただきました。私たちの住む江田島は、高齢者の多いこともわかり、お年寄りの方たちにもっと元気になってもらうために、私たちにかんがりたいと思い提案をしました。		
司会グループ	司会()さん	黒板記録()さん	ノ ー ト 記 録 ()さん
	司会()さん	黒板記録()さん	
話し合いのめあて	お年寄りの方が喜んでくれる交流会を計画しよう。		
決まっていること	・10月()日()いこいの里に訪問する。 ・お年寄りの方が喜んでくれる出し物をする。		
話し合いの順序		気を付けること	準備
1 はじめの言葉	話し合い 話し合うこと① 「どのような出し物(内容)にするか」 話し合うこと② 「必要な係」	・大きな声ではっきりと言う。(司会)	・司会原稿 ・話し合いワークシート
2 計画委員の紹介		・一人ずつ役割と名前、自分のめあてを言う。	
3 議題、提案理由、決まっていること、話し合いのめあての確認		・大きな声ではっきりという。(司会) ・事前に黒板に提案理由を書いておき、説明する。(提案者) ・司会が言ったあと、全員で声に出して言う。	
4 話し合い 話し合うこと① 「どのような出し物(内容)にするか」 話し合うこと② 「必要な係」		・みんなの話し合いワークシートに書かれていた内容を短冊に書いておき、意見が出たら黒板に張る。(黒板記録)出てこなければ、司会が指名して意見を言ってもらおう。 ・出し物を決めた後、必要な係を考えてもらい、役割も決定する。	
5 決まったことの発表		・わかりやすくまとめて発表する。(ノート記録)	
6 振り返り		・時間があったら2、3人に発表してもらおう。	
7 先生の話		・交流会に向けてみんなの気持ちがより高まるように元気よく言う。(司会)	
8 おわりの言葉			

(教師の指導計画)

内容	教師の支援	◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】
1 はじめの言葉		
2 計画委員の紹介	・自分のめあてが言えるように、事前に指導する。	
3 議題の確認	・提案者だけの思いではなく、学級全員の思いであることを確認する。	
4 提案理由の確認		
5 決まっていることの確認	・日時や訪問場所については、事前に教師と児童で決めておく。	
6 話合いのめあての確認		
7 話合い 話し合うこと① 「どのような出し物 (内容)にするか」 話し合うこと② 「必要な係」	【出し合う】 ・「お年寄りの方が喜んでくれる」というめあてから逸脱しないように必要に応じて助言する。 【比べ合う】【まとめる】 ・自分の考えに固執せず、納得をした上で、考えを変えるなど、折り合いをつけていくことも必要であることを助言する。	◎話合いのめあてを基に自分の考えをもつとともに、互いの意見を認め合ったり、高め合ったりしながら、合意形成を図ろうとしている。(思考・判断・表現)【観察、ワークシート】
8 決まったことの発表	・自分だけでなく、友達や学級全体のよさに気付くことができるように助言する。	
9 振り返り	・話合いでのよかった点、課題、今後の見通しなどについて簡潔に述べる。	
10 先生の話		
11 おわりの言葉		

【事後の活動】

日時	児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】
9月25日(月)	・決まったことを掲示する。	・学級会で決まったことの簡潔にまとめ、掲示するよう計画委員に助言する。	
9月下旬	・係ごとに準備をする。	・担当児童全員が、協力して活動できるように助言する。 ・進捗状況を確認する場を設け、意欲の持続を図る。	◎合意形成したことを基に協力し、進んで交流会の準備に取り組んでいる。(主体的に取り組む態度)【観察】
10月	・施設を訪問し、交流会を行う。 ・交流会終了後、振り返りを記入する。		◎交流会のめあてを意識しながら、友達と協力して実践している。(思考・判断・表現)【観察、振り返りシート】

2 キャリア教育の視点で取り組んだ実践

(1)江田島小学校

①算数科(第3学年)における授業実践

教 科	算数科
学 年	第3学年
単元名	たし算とひき算
単元の目標	○3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方や、加法や減法の計算が、2位数などの基本的な計算をもとにできることなどを理解し、3位数や4位数の加法及び減法の計算が筆算でできる。また計算の確かめをすることができる。 ○(2位数)±(2位数)の計算の仕方をもとに類推するなどして、3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方を考えることができる。 ○3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方を自己調整しながら、既習事項を活用し、考えようとしている。
キャリア教育として本単元で育成する力	見つめる力(自己理解能力・自己管理能力)
育成する力の具体	❖自分の学習状況、興味関心に合わせて、学習の方法を選ぶ。 ❖自分は、学習に対して、何がどれくらいできているかを既習事項に基づいて考える。

●教科の評価規準

キャリア教育においても、大事な部分になります！

算数科 主体的に学習に取り組む態度

3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方を自己調整しながら、既習事項を活用し、生活や自分の興味関心に合わせて考えようとしている。

●キャリア教育の視点 見つめる力

①単元計画表を児童に渡し、見通しをもって学習させると共に、児童それぞれの学習理解度をメタ認知させることを繰り返し、個に応じた学習方法を選択できるように学習環境を工夫する。

②総合的な学習の時間の学習と算数科の学習を関連付け、学習した内容が他教科や生活の中で活用できるような設定を仕組む。



総合的な学習の時間に勉強している地域の学習と結び付けて考えました。



自分たちで作成した問題場面が、生活と結び付けた時に、たし算やひき算の問題場面としてふさわしいか、吟味しました。



第2章 PDCA サイクル ～D～

単元構想計画（全15時間 本時13/15時間目）

	個別の問い・学習内容（時数）	指導・支援の工夫	評価の観点			見つめる力を付けるために
			知	思	態	
3けたのたし算（4）	繰り上がりのない3けたのたし算はどのように考えられるだろう。 ・加法の用いられる場面を理解し、立式する。 ・2位数同士の加法の計算の仕方を基にして、自力で計算方法を考える。 ・ブロック操作と筆算形式を対応させ、繰り上がりのない3位数の加法も、位ごとに計算することを理解する。	・位取り表とブロックを効果的に扱い、筆算による計算の理解を促す。 ・計算の仕組みを分かりやすくするために、位ごとに数をそろえて書く。		○	◎	見つめる力 既習をふり 返らせるこ とで、自分 の学びを見 つめる。
	繰り上がりのある3けたのたし算はどのように考えられるだろう。 ・十の位に繰り上げる筆算の計算の仕方を考え、発表し合う。 ・百の位に繰り上げる筆算の計算の仕方を考え、発表し合い、筆算の仕方についてまとめる。	・2桁のときの筆算に違いがあるかなどを考えさせる。 ・小さい1を十の位にかかせるなど、繰り上がりに気を付けて取り組ませる。	◎			
	繰り上がりが2回ある3けたのたし算はどのように考えられるだろう。 ・十の位にも百の位にも繰り上げる筆算の計算の仕方を考え、発表し合う。 ・ブロック操作と筆算形式を対応させながら、筆算の仕方についてまとめる。 ・十の位に繰り上げて十の位が空位になる場合の計算の仕方を考える。	・位ごとの数字に着目することで、どこに繰り上がりがあるのかを見付けさせる。 ・同じ意味のことも、自分の言葉で繰り返し説明させる。	◎			
	千の位に繰り上がる計算は、どのように考えられるだろう。 ・千の位に繰り上げる筆算の計算の仕方を考え、発表し合い、筆算の仕方についてまとめる。	・桁数が多くなっても、一の位から順に計算すればよいことを確認する。	◎			
3けたのひき算（4）	繰り下がりのない3けたのひき算はどのように考えられるだろう。 ・場面から、減法を用いればよいことを理解し、式を立てる。 ・（3位数）－（3位数）で繰り下がりのない場合の筆算の仕方を考え、発表し合う。 ・ブロック操作と筆算形式を対応させ、繰り下がりのない3位数の減法も、位ごとに計算することを理解する。	・繰り返しテープ図を使うことで、立式の根拠を示す活動を繰り返す。 ・既習の2位数通しの計算の仕方を基にさせる。		○	◎	
	繰り下がりが1回ある3けたのひき算はどのように考えられるだろう。 ・（3位数）－（3位数）で、十の位から一の位へ繰り下げる計算の仕方を考え、発表し合う。 ・百の位から十の位へ繰り下げる場合の計算の仕方を考え、発表し合い、筆算の仕方についてまとめる。	・ブロックを活用し、各位ごとの数を意識させる。	◎			
	繰り下がりが2回ある3けたのひき算はどのように考えられるだろう。 ・（3位数）－（2、3位数）で、十の位から一の位へ、百の位から十の位へと2回繰り下げる計算の仕方を考える。 ・ブロックなどを用いて、友達にもよくわかるように計算方法を説明し合い、筆算の仕方についてまとめる。	・ブロックの操作をていねいに行い、数が繰り下げられていく仕組みを体感させる。 ・筆算だけでなく、ブロック図や位取り表の図などを工夫してかくようにする。	◎			
	十の位が0の時の3けたのひき算は、どのように考えられるだろう。 ・（3位数）－（2、3位数）で、被減数の十の位が空位の場合で、百の位から一の位へ繰り下	・10のかたまりを意識しながらブロック操作をさせる。 ・補助数字を書いて、筆算を行わせる。	◎			

	ける計算の仕方を考える。 ・ $1000 -$ (3位数)で、千の位から繰り下げる計算の仕方を考える。						↓
大きい数の計算(1)	4けたのたし算、ひき算は、どのように考えられるだろう。 ・(4位数) $\pm$ (4位数)の計算の仕方を考える。 ・ $10000 -$ (4位数)の計算の仕方を考える。	・位をそろえているか、繰り上がり、繰り下がりに間違いがないかを意識させる。		○ ◎			見つめる力 4位数の加法及び減法の計算の仕方を自己調整する場面を仕組む。
計算のくふう(1)	繰り上がりや繰り下がりがないように、計算を工夫することができるだろうか。 ・ $289 + 120$ のできるだけ簡単な計算の仕方を考える。 ・ $300 + 120 - 2$ という計算の方法を知る。 ・前問の計算方法をもとにして、 $500 - 198$ のできるだけ簡単な計算の仕方を考える。	・計算を工夫するという目的を、計算が簡単にできることになることに絞る。 ・どのように考えたのかの途中の式を残す。		○ ◎			
計算のくふう(2)	順番を変えて、簡単に計算することができるだろうか。 ・ $875 + 47 + 53$ のできるだけ簡単な計算の仕方を考える。 ・加法の計算のきまりについて知る。 ・加法と減法について暗算の仕方を考える。	・たくさんの問題をこなすことよりも、自分に合ったやり方を見付け、使えるようにさせる。		○ ◎			
どんな計算になるかな(1)	テープ図を使いこなすことのよさはなんだろう。 ・文章題を読んで、尋ねていることは何かを理解する。 ・文章の関係図を使って立式し、既習の筆算を用いて、問題を解決する。	・3桁の計算を利用する文章問題において、テープ図を効果的に活用し、問題解決の方法を考えることができる。		◎			
深めよう(1)	生活の中で、大きい数の計算を使う場面はあるのだろうか。 ・総合的な学習の時間で、江田島について調べた数値について、問題を考える。 ・文章の関係図を使って立式し、既習の筆算を用いて問題を解決する。(1)本時	・図を簡単にかかせ、数量関係がわかるようにさせる。 ・他教科で学習した内容の数値を利用して、イメージしやすい問題を設定させる。 ・問題作りにおいて、試行錯誤させることによって、学びを深めさせる。		◎			見つめる力 興味関心をもち、自ら積極的に取り組む意欲を育てる。
深めよう(2)	生活の中では、どのように大きい数の計算を使っているのだろう。 ・日常生活の場面で、3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方を活用する。	・いろいろな場合に合わせて、テープ図を使って立式し、求めたいものを整理することが出来る。		◎			見つめる力 自分が学習に対して、何がどのようになっているかを考えて、学習を選択できるようにする。
学びの確認(1)	自分は、どれだけ学習内容がわかっているのだろうか。 ・(3、4位数) $\pm$ (3、4位数)の筆算をする。 ・筆算の間違いをを見つけ、正しく直す。 ・加法の計算のきまりについて振り返り、工夫して計算する。 ・問題場面から、加法定義化を判断し、立式し解決する。	・それぞれの学習状況に応じて、選択的に問題に取り組ませる。		◎			

本時の展開

本時の指導過程

	学習活動	指導上の留意点（◇）	評価規準（○）と（評価方法）
導入 5分	1 活動内容を確認する。	◇単元計画表を見て、めあては書かせておく。	
	めあて 「江田島はかせ」の問題を作ろう。 ・社会科、総合的な学習の時間に調べた、江田島に関わる数を使って、問題作りをすることを理解する。	◇それぞれの単元計画表を見て、これまでの学習内容と、自分の理解度を確認する。【見つめる力】 ◇自分達が作った問題で、次時にゲームをすることを伝える。	
展開 35分	2 問題作りをする。（20分） ・社会科、総合的な学習の時間で調べた江田島に関わる「人数」「距離」「高さ」「重さ」の数値を使って、たし算、ひき算の文章問題を作る。	人数：江田島にある6つの小学校、それぞれの全校児童の数と、それぞれ3年生の児童数（単位：人） 距離：それぞれの小学校や、大型ショッピングモール、有名観光地の間の距離（単位：m） 高さ：江田島にある山の高さ。（単位：m） 重さ：江田島の漁獲量（単位：kg） 【問題例】 江田島で一番高い山と東京スカイツリーでは、どちらがどれだけ高いでしょう。 $634 - 437 = 197$ （←繰り下がり2回のひき算） 陀峰山 <u>答え スカイツリーが197m高い</u>	
	【問題例】 500人が入れる会場があります。江田島小学校の全児童 205名だけでは満員になりません。あと何人いれば満員にすることができますでしょう。暗算で求めましょう。 $500 - 200 = 300$ $300 - 5 = 295$ （←計算の工夫） <u>答え 295人</u>	◇作った問題が、どの学習内容に対応する問題なのかを考えさせる。 ◇はやくできる児童には、おそらく作りにくいであろう「計算の工夫」を扱う問題作りに挑戦させる。	【態】 ○興味関心に合わせて、既習事項を生活や他教科の学習と結び付けようとしている。（ノート・観察法）
		◇問題作りが進まない児童には、具体的なイメージが持ちやすいように、「人数」や「高さ」など、情報を制限して、教師と共に考えさせる。 ◇式だけでなく、立式の根拠となる図を必ずかかせる。 ◇早く進んだ児童は、机に緑のふだを出して、悩んでいる児童と関わらせる。	
	3 問題について吟味する。（15分）	◇これまでの学習と照らし合わせて、何時間目の学習内容で解答できるかを考えさせる。 【見つめる力】 ◇テープ図を使って、立式の根拠を考えさせる。 ◇教師が問題を選び、どのような問題作りがよいのかを考えさせる。 ◇数字だけでなく、生活場面に関して、問題として成立するか、自分達が作った問題をふり返らせる。 【見つめる力】	
終末 5分	4 自分の学習理解度を確認する。	◇本時の学習状況から、自らの理解度をメタ認知し、次時に、どのような練習問題をするかを考えさせる。 【見つめる力】	

②算数科(第3学年)における授業実践

教 科	算数科
学 年	第3学年
単元名	あまりのあるわり算
単元の目標	○除法の計算の仕方を主体的に考えたり、計算に関して成り立つ性質を見だし、その性質を計算の工夫や確かめに活用したりするとともに、日常生活に活かす態度を育んでいく。
キャリア教育として本単元で育成する力	見つめる力（自己理解能力・自己管理能力）
育成する力の具体	❖自分に合った学習の方法を選ぶ。 ❖自分は、学習に対して、何がどれくらいできているかを考える。

●教科の評価規準

キャリア教育においても、大事な部分になります！

算数科 主体的に学習に取り組む態度

余りのある除法の問題について、具体的な場面の中で考え、余りの処理などに関して自分なりの解決法を見付け出そうとしている。



●キャリア教育の視点 見つめる力

①自分で学習計画を立て、具体的な場面の中で課題を解決していく。自由な環境の中でどの学習方法を選択するか、どの考え方を選ぶか、などと子供たちが自分のできそうなことを考えながら迷っている時間こそが自分を見つめている時間である。



授業の導入では、前時に動画撮影をしながら説明することを選んだ児童の動画を見ながら、学びを振り返りました。



余りの処理の仕方について、一人で考えたり、友達に説明しながら考えたり、前で先生にヒントをもらいながら考えたりしました。



単元構想計画（全5時間 本時2／5時間目）

	学習内容（時数）	指導・支援の工夫	評価の観点			見つめる力を付けるために
			知	思	態	
導入	- リンゴ25個を5個ずつ袋に入れる場合とみかん20個を6個ずつ入れる場合について、それぞれ何袋できるか考える。 34÷6の等分除の問題場面で、余りのある除法の立式と答えの求め方を確かめる。 （1）	- ブロックなどを使ったり、既習の除法を使ったりして考えさせるようにする。 - 余りのあるわり算の答えの表し方を知らせる。		①		
展開	4でわる除数とその余りを比べ、余りの数の範囲を考える。 - 余りは、除数より小さい数であることを確かめる。 本時（1）	- 除法と余りの大きさには、どんな関係があるか考えさせる。 - わる数>余りの関係をおさえる。		①	②	自分は、学習に対して、何がどれくらいできているかを考える。自分は、学習に対して、何がどれくらいできているかを考える。
	除法の答えの確かめ方を知る。 （1）	答えを確かめるときは、答えの確かめの式を実際に計算して、被除数と等しくなるかどうかを調べさせる。	②		①	
まとめ・振り返り	- 余りのある除法の計算をする。 - 余りのある除法の文章題を解く。 - 余りのある除法の計算をする。 - 余りのある除法の問題を解く。 （2）	早く終わった児童には、数値を変えて問題作りをさせたり、友達と説き合う活動を仕向ける。	②		②	

本時の展開

本時の指導過程

学習活動		指導上の留意点（◇）	評価規準（○）と（評価方法）
導入 5分	1 前時の学習を振り返る。	◇「わり切れる」、「わり切れない」の算数用語をおさえる。	
展開 20分	2 本時の問題を確認する。	◇本時の問題は「わり切れない」計算であることを確認したのちに、教員から誤答を示す。	
	23このくりを4こずつふくろにいれると、何ふくろできて、何こあまりますか。 めあて あまりが大きすぎる場合、どうすればよいか考えよう。		

展開 20分	3 $23 \div 4 = 4$ あまり7では間違っている理由を考える。	◇図・式を関連づける。 ◇電子黒板でイラストを表示し、丸で囲む活動を行う。 ◇あまりが、わる数より大きいと商が1繰り上がることを確認する。	【思－①】 ○余りのある除法を考える際、九九を想起し余りが出るかどうか判断し、余りが除法より小さくなることなどに気付いている。 (観察法・ノート)
	4 $\boxed{3}$ について自分で場所を決めて考える。	◇自分でできる児童はワークシートを受け取り、教室工法で学習する。教員と行う場合には、黒板前で学習する。	(キャリア教育の視点) 【学－②】 ○自分は、学習に対して、何がどれくらいできているかを考えている。
	5 教科書52ページ $\boxed{4}$ 、 $\boxed{5}$ を行う。	◇丸付けは児童自身で行う。	
終末 20分	6 自分問題の作成や、動画作成を行う。	◇自分のやりたいことを選択して学習を行う。難易度ではなく、自分の勉強スタイルを理解したうえで行動することに重点を置く。	(キャリア教育の視点) 【学－①】 ○自分に合った学習の方法を選んでいる。
			【態－①】 ○除法の性質を見い出し、その性質を計算の工夫や確かめに活用するとともに、日常生活に活かそうとしている。 (観察法・ノート)

③算数科(第5学年)における授業実践

教科	算数科
学年	第5学年
単元名	平均
単元の目標	○平均の意味について理解する。 ○概括的に捉えることに着目し、測定した結果を平均する方法について考察し、それを学習や日常生活に生かす。
キャリア教育として本単元で育成する力	見通す力（キャリア・プランニング能力）
育成する力の具体	❖ 測定した結果を平均することを、生活や学習に活用しようとしている。 ❖ よりよい学びにするための学習計画を考えようとしている。

●教科の評価規準

キャリア教育においても、大事な部分になります！

算数科 主体的に学習に取り組む態度

- ①数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとしている。
- ②測定した結果を平均することについて、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えようとしている。

●キャリア教育の視点 見通す力

- ①平均の学習を日常生活や他教科の学習と結び付けることができるような学習課題を設定する。
- ②個別に自分の学びを選択し、粘り強く考え続けるための学習計画を設定させる。自分で行えるか確認する問題、実際に具体物を操作する問題、日常生活と結び付けて考える発展問題の3つの課題と学習環境を整備する。



平均と理科の学習と結び付けて、ふりこの測定をした際の除外値の扱い方について実際に実験をして考えました。

どの学習をするかは、自分で計画を立てて決めました。



グループで課題について考えたり、一人で考えたり、ホワイトボードの前では日常生活と結び付けた発展問題について考えたりしました。



単元構想計画（全7時間 本時4/7時間目）

次	学習内容（時数）	評価の観点			育成する力を付けるために	評価方法
		知	思	態		
1	・ならすということ进行操作と計算で求める方法で考え、「平均」という用語と意味を理解する。 ・いろいろな量の平均を求める。（1）	①				
2	・合計する数が違う場合も、平均が使えることを理解し、平均の求め方を説明する。（1）		①			観察法・ワークシート
	・実測値から平均を求める方法を理解する。（1）	①				
	・実測や実験などで平均を求めるとき、極端に違う値は除くこともあることを理解する。（1）本時	②		①	【見通す力】	観察法・ワークシート
	・仮の平均を決めて計算すると、平均が能率的に求められることを見出し、説明する。（1）		②			
3	・平均の考えを使って問題を解く。 ・平均の考えを用いて、身の回りの事象について考え、理解を深める。（2）	①	②	②	【見通す力】	観察法・ワークシート 振り返り

本時の展開

本時の指導過程

学習活動		指導上の留意点（◇）		評価規準（○）と（評価方法）															
導入 10分	1 課題をつかむ。																		
	めぐみさんは、理科の実験で、ふりがが10往復する時間を調べました。 ふりがが1往復する平均の時間を求めましょう。																		
	ふりがが往復する時間																		
	<table><tr><th>回数</th><th>1回目</th><th>2回目</th><th>3回目</th><th>4回目</th></tr><tr><td>10往復の時間（秒）</td><td>15</td><td>14</td><td>23</td><td>13</td></tr><tr><td>1往復の時間（秒）</td><td>1.5</td><td>1.4</td><td>2.3</td><td>1.3</td></tr></table>					回数	1回目	2回目	3回目	4回目	10往復の時間（秒）	15	14	23	13	1往復の時間（秒）	1.5	1.4	2.3
回数	1回目	2回目	3回目	4回目															
10往復の時間（秒）	15	14	23	13															
1往復の時間（秒）	1.5	1.4	2.3	1.3															
		◇除外してよい数値に着目させる。 ◇課題をつかむ場面は、一斉指導を行う。																	
展開 30分	2 学習のめあてを立てる。																		
	大きくはなれた値があるときは、どのように平均を求めるのだろう。																		
	3 課題に取り組む。 （学習計画→自力解決→分析→練習）	＜学習計画＞（2分） ◇資質・能力に関する計画を立てさせる。（見通す力でなくても可） ＜自力解決＞（5分） ◇計算だけではなく、ななみさんの考えを穴埋めする形の、説明課題を設定する。 ◇電卓を用意する。 ＜分析＞（3分） ◇自力解決のときにできたこと、できなかったことを＋・－で振り返らせる。		（キャリア教育の視点） 【見通す力】 ❖測定した結果を平均することを、生活や学習に活用しようとしている。 ❖よりよい学びにするための学習計画を考えようとしている。 （観察法、振り返り）															

	<練習> (20分) (全ての児童への環境設定) ◇自分でふりがが往復する時間の平均を求め、データを考察する課題に取り組む場を設定する。 (E児・F児への環境設定) ◇以下の教科書の練習問題を解いた後に、もう1度自力解決できるか確認するための類題を用意する。	○妥当な測定値を求めるためには、大きく離れた値を除いて平均値を用いればよいことを理解している。【知ー①】												
次の表は、あらたさんが50m走をしたときの記録です。 あらたさんの記録の平均は何秒ですか。 あらたさんの50m走の記録 <table border="1"><tr><td>回数</td><td>1回目</td><td>2回目</td><td>3回目</td><td>4回目</td><td>5回目</td></tr><tr><td>記録(秒)</td><td>9.5</td><td>9.1</td><td>9.4</td><td>12.6</td><td>9.2</td></tr></table>			回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	記録(秒)	9.5	9.1	9.4	12.6	9.2
回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目									
記録(秒)	9.5	9.1	9.4	12.6	9.2									
	(A児・B児への環境設定) ◇以下のような場面と、教科書場面を比較することで、平均を実生活で扱う時、大きく外れた値を除外値とみなすかどうかということについて考えさせる。													
次の表は、はち植えて採れたトマトの数を調べたものです。1日に平均何個のトマトが採れたことになりますか。 はち植えて採れたトマトの数 <table border="1"><tr><td>曜日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td></tr><tr><td>記録(秒)</td><td>6</td><td>3</td><td>2</td><td>0</td><td>8</td></tr></table>			曜日	月	火	水	木	金	記録(秒)	6	3	2	0	8
曜日	月	火	水	木	金									
記録(秒)	6	3	2	0	8									
	(C児・D児への環境設定) ◇一人でじっくりと考える学習環境を保証するとともに、よりよい学びにするための練習問題の選び方について、声かけをする。	○測定した結果を平均すること、を、生活や学習に活用しようとしている。【主ー①】 A…大きく離れた値を除いて平均値を用いる場面と、そうではない場面の違いを、他教科や生活と結び付けて考えようとしている。 B…大きく離れた値を除いて平均値を用いる場面を、他教科の学習と結び付けて考えようとしている。												
終末5分	3 振り返りをする。	◇学習内容の振り返り(めあてに対するまとめ・学習においての気づき)と、自らの学び方の振り返り(資質・能力面)をさせる。												



平均と理科の学習と結び付けるために、理科専科からのメッセージを授業の冒頭で紹介しました。

全体で除外値の意味について確認した後、どんな学習を行うか、自分で計画を立てました。



(2)江田島中学校

①数学科(第1学年)における授業実践

教 科	数学科
学 年	第 1 学年
単元名	身近に潜む数学～規則的に並んだ、棒の本数を求めよう～
キャリア教育として 本単元で育成する力	人間関係形成能力・社会形成能力（関わる力） 課題対応能力（やり抜く力）
育成する力の具体	❖ 自分の考えを伝えるときにも他者の意見も聴きながら、協働して何事にも取り組もうとしている。（関わる力） ❖ 課題を発見し、適切な解決方法を選択し、工夫して取り組もうとしている。（やり抜く力）

単元評価規準（全 17 時間 本時 16／17 時間目） ※キャリア教育の視点は太字・下線・網掛けをする。

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① 文字を用いることの必要性和意味を理解している。 ② 文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知っている。 ③ 具体的な場面に関連付けて、文字に数を代入して式の値を求めることができる。 ④ 簡単な一次式の四則の計算をすることができる。 ⑤ 数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解している。 ⑥ 数量の関係や法則などを式を用いて表したり読み取ったりすることができる。	① 具体的な場面と関連付けて、一次式の四則の計算の方法を考察し表現することができる。	① <u>文字を用いることのよさに気付いて粘り強く考え、文字を用いた式について学んだことを生活や学習に活かそうとしている。</u> ② 文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

学習指導計画(本時 16 時間目／全 17 時間)

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」とする。

次	学習内容（時数）	評価の観点			育成する力	評価方法
		知	思	態		
1	・ 正方形を横に並べた形をつくる とき、必要な棒の本数を求め る。(1)		●	●		・ ワークシート (記述内容)
2	・ 文字を使った式の積や商の表し 方のきまり(3)	○ ●				・ ワークシート (記述内容) ・ 小テスト
	・ 言葉から式に表す。(3)	○			【人間関係形成能力・ 社会形成能力】	・ ワークシート (記述内容) ・ 行動観察
	・ 式からその意味を読み取る。 (1)		○ ●		【課題対応能力】	・ ワークシート (記述内容) ・ 行動観察
3	・ 式の値の求め方(2)	○				・ 小テスト
4	・ 1 次式の計算の仕方(4)	○				・ ワークシート (記述内容) ・ 小テスト

5	・文字式の利用 (3) ※本時：2時間目/全3時間		○ ●	○ ●	【人間関係形成能力・ 社会形成能力】 【課題対応能力】	・ワークシート (記述内容) ・行動観察
---	------------------------------	--	--------	--------	-----------------------------------	----------------------------

本時の展開

(1)本時の指導過程

学習活動		指導上の留意点 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て) (★配慮を要する生徒への手立て)	評価規準 (○) と (評価方法)
導入 5分	1 単元導入の振り返り (正方形が2個、3個、…100個の場合の棒の本数)	◇生徒の苦手意識を下げて展開へ移れるよう、具体的な数 (正方形が2個、3個) の場合を取り扱う。	
展開 37分	2 課題1の提示 (三角形を n 個横に並べた場合の棒の本数を求めなさい)	★興味をもたせるため、ピラミッド等、生徒が興味をもちそうな三角形に関する写真を提示してから課題提示を行う。	
	本時の目標：規則的に並んだ図形に必要な、棒の本数を求めよう！		
	3 個人で考える		(キャリア教育の視点①) 【課題対応能力】 ❖課題解決に至らずとも、課題解決に向けて粘り強く取り組んでいる。 (観察法：ルーブリック評価規準 A・Bの姿が見られれば、それを認め、全体へ広げる。)
	4 グループで考え、ホワイトボードに課題解決の方法をまとめる	(話し合い) ◇わからないことがあれば周りに積極的に質問すること、質問されたら自分の力を積極的に貸すよう促す。 ◇説明の際には、数学的な表現を用いるよう促す。 ◇誰一人見捨てることなく教え合いに取り組むよう促す。	(キャリア教育の視点②) 【人間関係形成能力・社会形成能力】 ❖自分の考えを持ち、数学的な表現を用いて、他者へ伝える努力をしている。 (観察法：ルーブリック評価規準 A・Bの姿が見られれば、それを認め、全体へ広げる、ワークシートへの記述：数学的な表現を使ったか、積極的に質問したり、教えたりしているか。)
	5 課題2 (適用題) に取り組む (六角形を n 個横に並べた場合の棒の本数を求めなさい)		○思-① ・具体的な場面と関連付けて、一次式の四則の計算の方法を考察し表現することができる。 (観察法、ワークシートの振り返り)

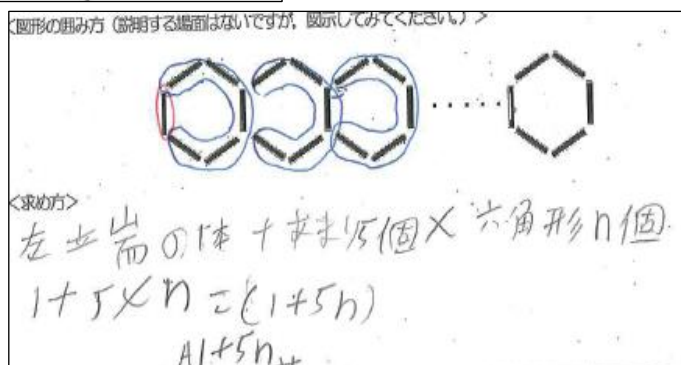
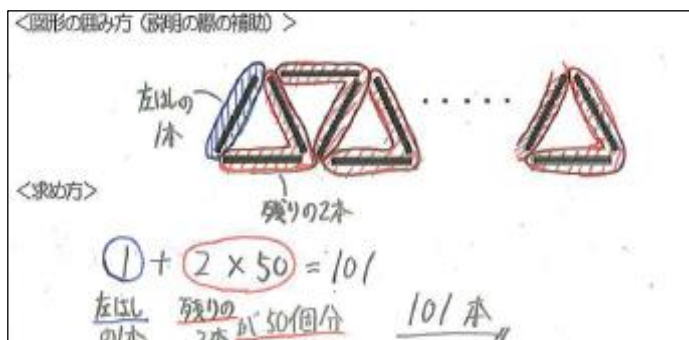
終末 8分	6 まとめの記入、発表	◆発表者が出そうにない場合は、図形を囲んだ図を提示し、変わらない（繰り返し足される）部分に着目すればよいことに気付かせる。 ・形が三角形でも六角形でも、変わらない部分に注目すれば問題を解決できる。 ・繰り返し足される数や形に気付くことさえできれば、問題を解決できそう。	○態一①② ・文字を用いることのよさに気付いて粘り強く考え、文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。（観察法、ワークシートの振り返り）
----------	-------------	--	---

(2)研究授業の実際

①授業の様子



②学習成果物



②国語科(第1学年)における授業実践

教科	国語
学年	第1学年
単元名	ちょっと立ち止まって
キャリア教育として 本単元で育成する力	課題対応能力（やり抜く力）
育成する力の具体	❖自ら課題を発見し、解決に向けて粘り強く取り組む力。

探究課題（単元を貫く問い）

◎説明文で理解した内容を、日常生活の問題解決に生かすことはできるだろうか。

単元評価規準（全17時間 本時16／17時間目 ※キャリア教育の視点は太字・下線・網掛けをする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果、意見と根拠など、情報と情報との関係について理解している。	②文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 ③文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。	④言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に思いや考えを伝えようとしている。

学習指導計画(本時16時間目／全17時間)

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」とする。

	個別の問い・学習内容（時数）	指導・支援の工夫	評価の観点			やり抜く力を 付けるために	評価方法
			知	思	態		
導入	本文の概要はどのようなものか。 ○中学生が共感できそうな悩みをいくつか示し、評価規準と単元の流れを説明して見通しをもたせる。全文を通読し、序論・本論・結論に分け、文章の構成を捉える。 (1)	・単元の見通しをもたせる。 ・三つの図のほかにもだまし絵をいくつか示し、内容に興味・関心をもたせる。	① ○				・ノート
	三つの図は、どの主張の根拠に当たるのか。 ○図に対応した文章のまとまりから要点を見付け、要旨を説明する。 (1)	・主張と具体例のつながりを理解させ、最終的な筆者の主張を自分の言葉でまとめさせる。		② ○			・ノート
展開	新たな課題に筆者の主張を当てはめて考えると、どのような視点から考えられるか。 ○最初に示した悩みについて、ものの見方や考え方を考えることで新たな気付きがあることについて、班で考える。 (1)	・筆者の三つの具体例と意見を身近な例に照らし合わせて考え、新たな視点から解決策を考えさせる。 ●考えたことを記録したり伝えあったりする活動。	①	② ◎			・ワークシート

まとめ・振り返り	説明文の読み取りから、どのように自分の見方や考え方が広がったか。 ○前時の考えを共有し、学習を通して説明文のよさについて考え、交流する。（本時）	・これまでの内容を通して説明文の読み取りの学習について価値付けをさせる。 ●理解したことを報告したり文章にまとめたりする活動。	③ ◎	④	生活や学習の過程を振り返って課題を見付け、主体的に解決したり次に生かしたりする。	・ワークシート ・観察
----------	--	---	--------	---	---	------------------------

本時の展開

(1)本時の指導過程

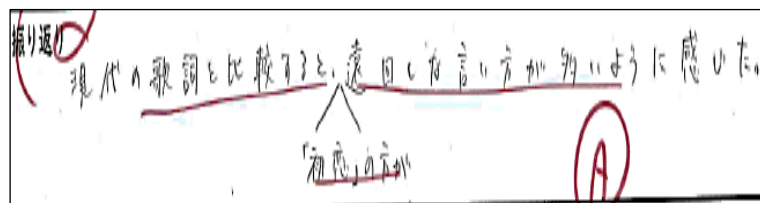
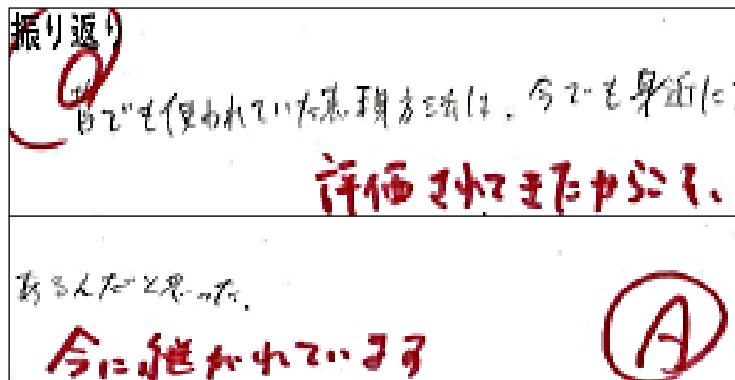
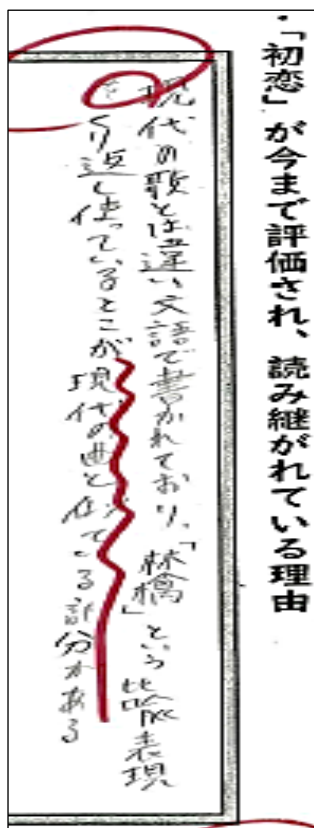
	学習活動	指導上の留意点（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て）	評価規準（○）と（評価方法）
導入 3分	1 課題と目標を確認し、学習の見通しをもつ。	◇筆者の主張を再度確認させる。	
展開 42分	2 前時に班で考えたアドバイスを交流する。	◇ 筆者の挙げる三つの例のどれに当てはまるのかを明確にして発表させる。	【思-③】 ○ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行うことができる。（ワークシート） 言語活動…理解したことを報告したり文章にまとめたりする活動。 【やり抜く力】 ○説明文の価値を見い出し、積極的に自身のものの見方、考え方に取り入れようとしている。
	3 説明文のよさについて考えたことをまとめる。	◇ 前時までの学習で考えたことを通して説明文を価値付け、これからに生かしたいことをまとめさせる。また、その際には意見と根拠を明確にして書かせる。 ◆ 外国籍の生徒2名に対しては、ワークシートを簡略化し、振り仮名を付けたものを配布する。文章にまとめる活動では、短文で書かせる。	
	【予想される生徒の記述（B評価）】 私が考える説明文の「よさ」とは、自分とは違う新しい考え方に出会うことができるということだ。なぜなら、「ちょっと立ち止まって」の学習を踏まえて「いつも先輩に怒られる」という悩みについて考えたとき、「他の見方をするためには、今見えているものを意識して捨て去らなければならない」という例を使うと、「本当は怒っているわけではないのではないか」という新しい見方でアドバイスを考えることができたからだ。これからは、ただ内容を読むだけでなく、説明文で得られた新しい考え方を、自分自身のことに当てはめて考えたい。	◆ 自分だけでは考えを書きにくかった生徒には、他の人の意見についてメモを取るなどし、自分の考えと比較させる。	
終末 5分	4 班で交流する。 5 全体で各班の意見を交流する。		
	6 自己評価、振り返りを行う。	◇ なるべく生徒の言葉を使ってまとめる。	

(2)研究授業の実際

①授業の様子



②学習成果物(※ワークシートを参照)



③本時における成果(○)と課題(●)

- 作品の価値について考えるという問いの設定や、身近な歌謡曲と現代詩を比較するという活動は、生徒が積極的に言葉の意味や作者の意図を考えるために効果的だった。
- 四つの歌詞から選択して作品を比較することで、自分で判断して粘り強く考えるとともに、多様な視点から考えさせることができた。
- 自分が見付けた工夫点を交流、発表することはできたが、思考の過程や根拠をさらに明確にさせる必要があった。また、考えを広げるために別の歌詞を選んだ生徒同士で意見交流をさせたが、同じ歌詞を選んだ生徒で交流した方が、それぞれの考えが深まったのではない。

③社会科(第3学年)における授業実践

教科	社会科
学年	第3学年
単元名	1節 消費生活と市場経済
キャリア教育として 本単元で育成する力	人間関係形成能力・社会形成能力（関わる力）
育成する力の具体	❖自分の考えを伝えとともに他者の意見も聴きながら、協働して取り組む力。

単元評価規準（全17時間 本時11/17時間目） ※キャリア教育の視点は太字・下線・網掛けをする。

各教科の 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。	①対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。	<u>①市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</u>
	②市場経済の基本的な考え方について理解している。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解している。	②対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現している。	
	③現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解している。		
	④勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神について理解している。		

学習指導計画(本時11時間目/全17時間)

※○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」とする。

次	学習内容(時数)	評価の観点			関わる力を付けるために	評価方法
		知	思	態		
1	単元を貫く問い 「金融の働きがなぜ世界に広がり、私たちの生活に重要なのか説明できる。」			●	【主体的に学習に取り組む態度】	・ワークシート (記述内容、振り返り) ・行動観察
2	私たちの消費生活 ・商品の生産と消費を通して暮らしを豊かにする仕組みが経済であることを理解する。 ・将来の家計の支出を予測し、より良い消費生活の在り方を検討する学習を通して、主体的に社会に関わろうとする。			●	【主体的に学習に取り組む態度】	・ワークシート (記述内容、振り返り) ・行動観察
3	契約と消費生活 ・広告が消費行動に与えている影響に着目し、消費者主権を理解する。 ・身近な事例を通して、消費生活が契約によって成り立っていることに気付き、契約について多面的・多角的に考察し、表現する。		●		【人間関係形成能力・社会形成能力】	・ワークシート (記述内容、振り返り) ・行動観察
4	消費者の権利を守るために ・消費者の権利とその保護について、具体的な被害例や対応策などを通して理解し、その知識を身に付ける。 ・自立した消費者であるためにはどう		○	●	【主体的に学習に取り組む態度】 【思考・判断・表現】 【人間関係形成能力・社会形成能力】	・ワークシート (記述内容、振り返り) ・行動観察

	すべきか、多面的・多角的に考察し、表現する。				<u>力・社会形成能力</u>	
5	消費生活を支える流通 ・流通の仕組みや役割、流通の合理化の取り組みについて、生活者と消費者の立場など多面的・多角的に考察し、表現する。 ・1節の学習内容を振り返って、探究のステップにある「消費活動で、なぜ消費者の自立が求められているのか」を考察する学習を通して、主体的に社会に関わろうとする。		○	○	【主体的に学習に取り組む態度】 <u>【人間関係形成能力・社会形成能力】</u>	・ワークシート（記述内容、振り返り） ・行動観察
6	生産活動と企業 ・分業と交換に着目して企業の生産活動を中心に、資本主義経済の大まかな特徴を理解する。 ・身近にある財やサービスの生産における分業と交換のよい点を、効率の観点から適切に表現する。		○		【思考・判断・表現】	・ワークシート（記述内容、振り返り） ・行動観察
7	企業の種類 ・中小企業をはじめとする日本の企業の種類やそれらの現状と課題について調べ、理解する。 ・自分が起業するとしたら、どのような企業を創るか、企業の社会的責任に着目して、具体的な事例を基に、多面的・多角的に考察し、表現する。	○	○		【思考・判断・表現】 【知識・理解】	・ワークシート（記述内容、振り返り） ・行動観察
8	株式会社の仕組み ・株式会社の仕組みや株価の変動とその背景について、様々な資料を読み取る学習を通してそれらを理解する。 ・株主の権利や責任について、配当や投資と関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現する。	○		○	【主体的に学習に取り組む態度】 【知識・理解】 <u>【人間関係形成能力・社会形成能力】</u>	・ワークシート（記述内容、振り返り） ・小テスト ・行動観察
9	労働の意義と労働者の権利 ・労働者の権利を守り、労働条件を改善するために、労働組合や様々な法律があることを理解する。 ・多様な働き方が求められている背景を、個人の尊重の観点から適切に表現する。		○		【思考・判断・表現】	・ワークシート（記述内容、振り返り） ・行動観察
10	労働環境の変化と課題 ・現代日本の労働環境の課題を解決し、いきいきと働ける社会を実現するにはどうしたらよいかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・2節の学習内容を振り返って、探究のステップにある「生産活動では、なぜ労働者の権利を保障することが重要なのか」を考察する学習を通して、主体的に社会に関わろうとする。		●		【思考・判断・表現】	・ワークシート（記述内容、振り返り） ・行動観察

11	市場経済と価格の決まり方 ・価格に関する身近な事例を基に、市場経済の仕組みや価格の決定について理解する。 ・希少性に着目して、それと価格との関係について、需要量と供給量を関連付けながら、適切に表現する。 (本時)		●		【思考・判断・表現】	・ワークシート (記述内容、振り返り) ・行動観察
12	価格の働き ・独占禁止法の意義や、公共料金が定められている理由について、消費者の立場から考え理解する。 ・市場経済において価格が果たしている役割を、効率の観点から適切に表現する。	○			【知識・理解】	・ワークシート (記述内容、振り返り) ・行動観察
13	貨幣の役割と金融 ・身近な事例を基に、貨幣の役割や金融の働きについて理解する。 ・直接金融と間接金融の違いについて、株式や金融機関を関連付けながら、適切に表現する。		○		【思考・判断・表現】	・ワークシート (記述内容、振り返り) ・行動観察
14	私たちの生活と金融機関 ・日常生活の中で使っている支払いの方法について、本文から読み取る学習を通して、理解する。 ・私たちの生活と銀行の関係について、銀行の役割に着目して、具体的な事例を基に多面的・多角的に考察し、表現する。	●			【思考・判断・表現】 【知識・理解】 <u>【人間関係形成能力・社会形成能力】</u>	・ワークシート (記述内容、振り返り) ・行動観察
15	景気と金融政策 ・好景気と不景気の特徴についてまとめ、景気変動が社会生活に与える影響について理解する。 ・景気の変動に対して、どのような取り組みがなされているのかについて、日本銀行の金融政策と景気を関連付けながら、適切に表現する。	○	○		【思考・判断・表現】 【知識・理解】 <u>【人間関係形成能力・社会形成能力】</u>	・ワークシート (記述内容、振り返り) ・行動観察 ・小テスト
16	グローバル経済と金融 ・経済や金融のグローバル化が、私たちの生活へ及ぼす影響について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・3節の学習内容を振り返って、探究のステップにある「金融の働きは、なぜ私たちの生活にとって重要なのか」を考察する学習を通して、主体的に社会に関わろうとする。		○		【思考・判断・表現】 <u>【人間関係形成能力・社会形成能力】</u>	・ワークシート (記述内容、振り返り) ・行動観察
17	単元を貫く問いを完成させる。		○		<u>【人間関係形成能力・社会形成能力】</u>	

本時の展開

(1)本時の指導過程

学習活動		指導上の留意点（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て） （★配慮を要する生徒への手立て）	評価規準（○）と （評価方法）	
導入 5分	1 コロナ禍で、必要になったものは何か考えさせ発表させる。 生徒が予想する答え マスク、消毒液、パーテーション、フェイスシールド	◇個人思考 ◆★机間指導を行い、大切な部分は教師が赤ペンで線を引いて助言を行う。 生産者（売り手）の望み、消費者（買い手）の心理はどのようなものか考える。		
	2 生産者（売り手）の望み、消費者（買い手）の心理はどのようなものか考えさせる。 生徒が予想する答え 生産者：多く売りたい、高く売りたい 消費者：安く買いたい、欲しい物			
	本時の目標 コロナ禍で、マスクの価格が今までよりなぜ高くなったのか説明できる。			
展開 35分	3 価格の決定について、①・②の事例の理由を、個人で考察し、その結果について、グループで意見を交換する。 課題について個人で考えたことを、ペアで伝え合った後、グループで意見を交換させるを通して、価格の決定と需要と供給の関係に気付かせる。 ①大型連休中の宿泊施設の価格はどのようにして他の日より高い価格がついているのか。 ＜予想する生徒の答え＞ ①・平日よりも需要が高まるから。 ・需要が高い場合は、高い支払いをしても消費者は買う傾向があるから。 ②スーパーなどで、閉店間際に生鮮食品や総菜をなぜ値引きするのか。 ＜生徒する予想の答え＞ ②・スーパーは、売り切りたい。 ・安くなったら欲しい人がいるから。	◇個人→グループ ★机間巡視する生徒を決めておき、期間指導でアドバイスをする。 ★グループでの教え合いの時間を取る。 ◆机間指導を行い、大切な部分は教師が赤ペンで線を引いて助言を行う。 (教え合い) ・分からないことがあれば周りに積極的に質問すること、質問されたら自分の力を積極的に貸すよう、促す。 ・説明の際には、社会科の語句を使って表現を用いるよう促す。 ・誰一人見捨てることなく教え合いに取り組むよう促す。 ◆個人思考の時間を十分取る。 ◆グループでの教え合いの時間を取る。	両者が互いに利益を得るためにどのような行動をとるのか予想することで、それぞれの立場から需要と供給について考えられるようにする。（ワークシート） 価格が高くて需要が供給量より上回ると見込める場合は高い値段をつける 【思考・判断・表現】 商品の価格は、本時の事例や自分の生活体験などから考えられる様々な視点を考慮した上で、需要と供給との関係で決まっていることがまとめられているか。（ワークシート） (キャリア教育の視点①) 【人間関係形成能力】 ❖自分の考えを伝えるとともに他者の意見も聴きながら、協働して何事にも取り組もうとしている。 観察法：ルーブリック評価規準A・Bの姿が見られれば、それを認め、全体へ広げる。	
	4 グループでの意見交換をホワイトボードにまとめる。			
	5 本時のまとめを行う。			
	＜生徒のまとめ＞ 供給量より需要量が上回っている状態で、希少性の価値が高い商品になった。（B評価）			

終 末 10 分	6 自己評価・振り返りを行 う。 7 次回の内容を予告する。		振り返りシートに振り返 りを記入する。(振り返 りシート)
-------------------	--------------------------------------	--	-------------------------------------

(2)研究授業の実際

①授業の様子



②学習成果物(※まとめのワークシートを参照)

コロナ禍で、マスクの需要が上がり買い手は安い
値段で、多く買いたいが、マスクを作るのがあ、供給
量より、需要量が高くなっていた。売り手は、コロナ
でマスクが必要なので、多く売りたいが、供給量に足りず、
希少性が高くなってしまい、マスクの値段が高くなった。

・コロナ禍で、たくさんの人がたくさんのマスクを必要
とするようになった。なので、需要が供給より多くな
った。希少性が高まった。そのため、売り手は、値段を高く
した。買い手は値段が高くなっても必要なものなの
で買う。売り手はもうかることができる。それを利用して、
マスクは値上がりした。

③本時における成果(○)と課題(●)

- マスクの価格について考えさせていく際に、「需要」と「供給」という用語を用いて理由を記述させることで、概ね全員の生徒に自分の考えをもたせることができた。その結果、活発なグループでの話し合い活動につなげることができた。
- 代表者による全体発表の際には、意図的指名を行うことで、多様な考え方や説明の仕方に触れさせ、深い学びにつなげることができた。
- グループ全員が、同じような考えに留まっているグループがあった。「他にどのような説明の仕方ができるだろうか？」等、生徒の思考を揺さぶる発問も必要であったのではないかな。

④保健体育科(第3学年)における授業実践

教 科	保健体育科
学 年	第3学年
単元名	球技（バスケットボール）
キャリア教育として 本単元で育成する力	人間関係形成能力・社会形成能力（関わる力）
育成する力の具体	❖ 仲間の課題を見付け、課題の解決方法とともに伝えることができる。

単元評価規準（全8時間 本時4／8時間目） ※キャリア教育の視点は太字・下線・網掛けをする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各教科の 評価規準	①技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法について理解し、言ったり書き出したりしている。（知識） ②安定したボールで味方が操作しやすいパスを送ることができる。（技能） ③自己と仲間の様子を観察しながら、空間を作り出すなどの動きをすることができる。（技能）	①自己やチームの技術的な課題を発見し、課題解決のための方法について、自己の考えたことを他者に伝えている。 ②チームで分担した役割に関する成果や改善点について、自己の活動を振り返り、言葉や文章で表している。	①自己や仲間の技能を向上させるために、繰り返し粘り強く取り組もうとしている。 <u>②作戦などの話し合いについて、自己の考えを述べたり、相手の話を聞いた</u> <u>りするなど、チームの話し合いに責任をもって関</u> <u>わりようとしている。</u> ③体力や技能の程度、障害の有無等に応じて、自己や仲間の状況に合った実現可能な課題の設定や挑戦を大切にしようとしている。

学習指導計画(本時4時間目／全8時間)

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」とする。

次	学習内容（時数）	評価の観点			育成する力を付けるために	評価方法
		知	思	態		
1	オリエンテーション ・学習のねらい、授業の進め方 ・目標の設定 (1)	○		●		観察法
2	簡易ゲーム ・課題の設定 (1)		●	●		観察法 ワークシート
3	課題解決学習 ・オフENSEの課題解決に向けて (1)		○	○	【人間関係形成能力・社会形成能力】	観察法 Jamboard 振り返り
4	課題解決学習 ・ディフェンスの課題解決に向けて (1) 本時		○	●		観察法 Jamboard 振り返り
5	課題解決学習 ・チームの課題解決に向けて (1)	○	○	●		観察法 Jamboard 振り返り
6	簡易ゲーム ・ハーフコートによる4VS4 (3)	○		○		観察法 振り返り
7				●		
8						

本時の展開

(1)本時の指導過程

学習活動		指導上の留意点 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て) (★配慮を要する生徒への手立て)	評価規準 (○) と (評価方法)
導入 10分	1 ウォーミングアップ ・ストレッチ ・ランニング ・サーキット (6分) 2 課題と目標の確認 ・前時までの学習を振り返り、学習の見通しをもつ。 (4分)		
	めあて 得点を取られないためのディフェンスの動きを考え、仲間に伝える。		
展開 30分	3 ミニゲーム (3VS3) グループ学習 (30分)	◇ゲームの中で、前時の作戦を振り返り、実行させる。 ◇Jamboard を用いて作戦を考えさせる。 ◇ディフェンスに焦点を当てて作戦を話し合い、練習を行わせる。 ◆どこを守るかがわからない生徒に対しては、ゴールとオフENSEの関係を考えさせる。 ★自分のチームと相手のチームの見分けがつくように、色分けしたマグネットとホワイトボードを用意する。	(キャリア教育の視点) 【関わる力】 ❖ 仲間の課題を見付け、課題の解決方法とともに伝えることができる。 (観察法：仲間の技能の程度に配慮しながらアドバイスをしている場面が見られればそのことを取り上げ、全体に広げる、Jamboard：仲間の課題と解決方法を入力させる) ○思－① ・自己やチームの技術的な課題を発見し、課題解決のための方法について、自己の考えたことを他者に伝えている。 (観察法、Jamboard)
	3 片付け (3分) 4 まとめ (7分)	◇協力して片付けを行わせる。 ◇他のチームの Jamboard を見ながら、考えを共有させる。	
終末 10分			

(2)研究授業の実際

①授業の様子



②学習成果物

(※Jamboard を参照)



A振り返り

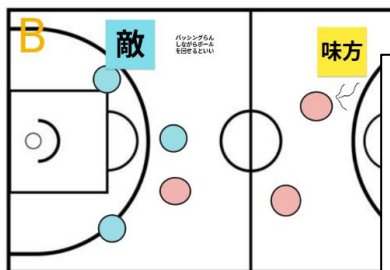
ボールを持っている人がパスする相手をうまくマークできず、ボールをパスされることが多かった。江口

相手がパスしそうで予想できそうなところが何度もあったが、周りに入っていきなかつた。相手がどのようなパス回しをするのかをプレーしながら予想し、カットしていけるようにしていきたい。坂前

ボールをパスするときに相手が前にきていた。
三宅

パスとパスの間が広すぎて相手に取られてしまった。味方の人の間に入って短いパスを繋げたい。山下

敵がパスをするときに、ボールの軌道の邪魔に入ることができず、パスが通ってしまった。味方の人がボールをよけようとして、ボールが通ってしまった。味方の人がボールをよけようとして、ボールが通ってしまった。



B振り返り

シュートを落ち着いてする

パスしやすいところに動くこと

敵がパスしようとしたら、敵(仲間)の前に行く石本

パスが上手く回らなかった原

味方と同じ動きをしない。前田

相手チームの隙間が、いないところに行き行って後ろ側に行く石本

ゴールしたに集まりすぎて、敵がボールを持ったときに敵のゴールにシュートしやすくなった。本森

今日シュートが入りませんでした。藏重

みんなシュートがきれいだった。藏重

③本時における成果(○)と課題(●)

- 導入の段階からチームごとで活動させることで、ゲームへ移行してからも継続して、活発に話し合いや活動を行うことができた。
- 作戦ボードの活用で可視化することにより、運動の得意でない生徒も自分のすべき動きを言語化できたり、授業の終末でもボードを見ながら次時のゲームの作戦を立てようとしていたことができた。
- 多くの生徒が仲間やチームの課題を見付けることはできていたが、一部チームでは作戦を提案する生徒が固定化しており、相互にアドバイスをし合いながらゲームを展開するまでには至らなかった。

⑤学校行事等の教育活動における実践例

【合唱コンクール】



教科等	学校行事
学 年	全学年
行事名	合唱コンクール
単元の目標	○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽への興味・関心を高め、生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。 ○集団で感動ある合唱を創り上げ、合唱の醍醐味と共通感動体験を味わう。 ○協力・協働して合唱曲を仕上げる中で、お互いのよさを認め合える集団を作る。
キャリア教育として単元で育成を目指す力	関わる力（人間関係形成・社会形成能力） やり抜く力（課題対応能力）
育成する力の具体	❖よりよい合唱を創り上げるために、他者と積極的に関わる「人間関係形成・社会形成能力（関わる力）」と、自ら課題を見つけて達成するための「課題対応能力（やり抜く力）」を高めていく。

	主な学習活動
6月上旬	○役割決定 ・各パートリーダー・サブリーダー・指揮者・伴奏者等を決定し、自らクラスにどのように関わるかを自覚し、また最後までやり抜こうとする意欲をもつ。
7月中旬	○縦割り交流授業（2時間） ・縦割りでの合唱練習により、上級生が下級生の見本となり、学校全体で行事を成功させようとする機運を高める。
7月～10月	○各クラスでの合唱練習 ・協力・協働して合唱曲を仕上げる中で、「関わる力」「やり抜く力」を養う。
10月中旬	○縦割り交流授業（2時間） ・本番が迫る中で、上級生から下級生へのアドバイスを送ることにより、下級生のつまづきを解決し、最後まで諦めず、よりよい合唱を作ろうとする機運を高める。
10月13日（木）	○中間発表会 ・自分たちのクラスの現在地を知り、最後まで自分たちの決めた目標に向け、クラス一丸となってやり抜こうとする意欲を育てる。
10月28日（土）	○文化祭合唱コンクール ・これまでの取組を「自己評価シート」で振り返る。

令和5年度 自己評価シート

学校行事『 合唱コンクール 』

事前の目標設定では、自らの関わり
方等に具体性が見られませんでした。

●目標の設定（事前記入）

到達目標（S～C）の達成に向け、どのようなことを意識して取り組んでいきますか？

みんなで協力して、この合唱コンクールでは「優勝」を
意識して取り組んでいきたい。

●振り返り（事後記入）

（見つめる力・関わる力・やり抜く力・見通す力）についての振り返り

	「関わる力」	「やり抜く力」
S	クラスで練習を進めるとき、合唱をより良くするため課題を見つけ協力して取り組むことができた。	クラスの一員として、自分の力を全て出し切ることができた。
A	クラスで練習を進めるとき、前向きになれるような声をかけ、協力して取り組むことができた。	クラスの一員として、自分なりに力を出し切ることができた。
B	クラスで練習を進めるとき、アドバイスを聞いて練習することができた。	自分の覚えていることをやり切ることができた。
C	真剣に練習に参加せず、アドバイスも聞き入れなかった。	力を出し切ることができなかった。

●「関わる力」の達成度 （ S ） ・ A ・ B ・ C

理由：クラス一丸となって良い合唱にするためクラス全員が普段は話さない人とも話したり、協力することができたからです。

クラス全員の「関わる力」が高まりました。

●「やり抜く力」の達成度 （ S ） ・ A ・ B ・ C

理由：クラスの一員として、人数が足りないのでリコーを助けるために、歌いながら、伴奏をすることができました。今までの中で一番よく歌えて、よく弾けたと思ったからです。

伴奏者としてやりきることができました。

●合唱コンクールMVP

(名前①) A くん	(理由) 合唱をよりよいものにしようと、歌わない人への呼びかけたり、全体のアドバイスを頑張っていたからです。
(名前②) B くん	(理由) 指揮者として、先生に習いに行ったり、最優秀指揮者賞に選ばれていたからです。

合唱コンクールへの取組を通して、リーダーとしてクラス全体を見渡し、頑張っている仲間を認め、励まし合いながら、集団の目標達成に向け「やり抜く力」が養われました。

【出前授業①】

教科等	P T A 講演会
学 年	全学年
題 材	夢・目標に向かって ～「やる気スイッチ」を「オン」にしよう～
講 師	山出 久男 氏 元サンフレッチェ広島 アカデミー部長
本時の目標	○講演を聞き、自分の長所や適性を振り返り、夢の実現に向け、主体的に行動しようとする意欲をもつことができる。
キャリア教育として 本時に育成を目指す力	見つめる力（自己理解能力・自己管理能力）
育成する力の具体	❖ 自分自身の内面や行動を見つめ直すきっかけにしている。

P T A 講演会とタイアップし、元サンフレッチェ広島 アカデミー部長である、山出久男氏を招聘し、「夢・目標に向かって～『やる気スイッチ』を『オン』にしよう～」と題して講演会を行いました。講師とは講演内容について、本校がキャリア教育の指定校であり、将来に向けて現在の自分自身を見つめ、夢や目標を達成する意欲がもてるような内容を依頼しました。

自分は将来何をやりたいのか？
自分には今何ができるのか？
「夢」「目標」を実現させるために、今から何をしたらいいのだろうか。

スポーツ選手の場合…
常識ある社会人として自立・自律すること
スポーツ選手として良きプレー、準備をする
スポーツ以外のことも勉強すること

これまで自分の将来について本気で考えることが無かった。「スイッチ」が入った。どんな人生を送りたいか考えるきっかけになりました。（女子生徒の声）



先生にいつも言われている「日頃の生活が大事」なことが再認識できた。「未来の可能性は取組次第」という言葉がとても励みになりました。（男子生徒の声）

普段から、今からこころがけたいこと、
できることから取り組もう！！

ルール・マナー 学習
自立・意思表示 協力
規則正しい生活
感謝の気持ち
仲間



過去は変えられないけど、未来の
可能性は取組次第！！

中学生として24時間をデザイン！
コミュニケーションを大切に！
意思表示をすることも大切！

【出前授業②】

教科等	総合的な学習の時間
学 年	1 学年
題 材	職業講話 ～働く人に学ぶ～
講 師	明治安田生命保険相互会社 中国・四国公法人部法人営業部 3 名
本時の目標	○「働く」ことは社会や自分の周りの人にどのような影響を与えているのか知る。 ○自分のなりたい大人になるための方法を模索し、Way to My Happiness（人生マップ）の完成に向けて主体的に行動しようとする意欲をもつことができる。
キャリア教育として 本時に育成を目指す力	見通す力（キャリアプランニング能力） ❖自分の夢を実現するための方法を考えるきっかけにしている。

明治安田生命に勤務されている 3 名を招聘し、今の職業に就くことに至った経緯や、「仕事」とはどのようなものか語っていただき、学生時代に頑張してほしいことについて講話を行った。講師とは講話内容について、本校がキャリア教育の指定校であり、「働く」意義や理想の大人になるために中学生は今何をすればよいか、キャリアプランニングの重要性についてなど、目標をもち、達成するための計画を立てる意欲がもてるような内容を依頼した。

「働く」って何だろうか？
なぜ人は働くのだろうか？
働くことで得られるものは？

なぜこの職業に就いたのか？
仕事のやりがい よかったと思うこと
この仕事の苦勞… 一生勉強をし続けること

私の将来の夢は、世界中を笑顔で幸せにすること。自分のやりたいことをしながら社会の役に立ち、そのために前にどんどん進んでいくなど、自分の生き方について考えていきたい。
(女子生徒の声)



どんな仕事でも、人と関わり、コミュニケーションをとらないと仕事ができないということが分かった。今は、何でも挑戦し、継続することを大切にしていきたい。
(男子生徒の声)

自分にとって「仕事」とは？
仕事とはお客様に役立つ物語(サービス・商品)を提供し、それにふさわしい代金をいただくこと。お客様の期待に応えるために…
・自分の役割を考え、チームのために自分が役に立てることはなにか考えて行動する。

学生時代に頑張してほしいこと
やりたいことを見つけるために色々なことに興味をもつ。
できることを増やすために何でも挑戦・継続。
周囲が求めることに気付くために思いやりとコミュニケーションを大切にする。